

令和3年度 豊成小学校 授業改善推進プラン

豊成小学校の目指す児童像

「互いの立場を尊重し、自分の思いや考えを自分の言葉で表現できる子」

豊成小では、研究テーマを「**自分の思いや考えを伝え合うことができる児童の育成**」として、国語を中心として授業研究に取り組んでいます。

また、学力テストの結果を受けて4教科について分析を行い、課題となる点と改善策についてまとめました。これらを基に授業改善を推進していきます。

◆学力テストの結果から

	課 題	改 善 策
国語	全国平均正答率に対して、どの領域も上回っているが、文章の構造を捉えながら読むこと、文の中で適切な漢字を選択して書くことに、若干の課題が見られた。	◇読む力を高めるために 読書量、読書の幅を広げるために読書環境の改善に努める他、授業では多様な文字資料に触れるとともに、図表やグラフ、絵、写真等の資料にも慣れさせる。説明的文章の学習では、文章全体の構造を捉えること、要旨を捉えることを丁寧に扱う。 ◇漢字を正しく読み書きする力を高めるために 朝の学習タイムを活用して漢字の復習を定期的に行い、確実な定着を図る。前学年で学習した漢字も適宜、復習する。
社会	全国平均正答率に対して、ほぼ同じ値だった。6年生では、日本の農業・水産業、国土についての知識・理解に課題が見られた。	◇学習した内容の理解と定着のために 実物資料が難しい場合は、映像資料やデジタル教材などを活用し、子供たちが具体的なイメージをもてるようにする。地図帳や各種の具体的な資料、グラフなどを適切に活用して、必要な情報をまとめる技能を身に付けるられるよう指導する。また、朝学習の時間などを有効に使い、既習事項の復習に重点を置き、繰り返し学習することで習熟を深める。
算数	全体的には、全国平均正答率とほぼ同じ値だが、領域で差があり、6年生では、「数と計算」「変化と関係」の領域に課題が見られた。	◇計算の力を伸ばすために 前年度までの学習内容について4月に確認テストを行い、把握された課題について、年間を通じて、朝の学習タイムや関連する算数の授業で習熟させる。特に計算については、繰り返し復習を行い、確実な定着を図る。 5年生で学習する小数のかけ算、割り算、単位量あたりの大きさ、速さを求める計算は、特に丁寧に指導し、繰り返し復習して定着を図る。
理科	どの領域も全国平均正答率を下回り、特に知識・技能領域が低く、基礎知識が身に付いていないことが課題である。	◇基礎知識を定着させるために 何を明らかにする実験や観察なのか、結果から何が分かったのかということをきちんと押さえ、理解したことが知識として定着するように授業の流れを見直す。直接体験ができないものについては、視聴覚教材を利用する。また、各領域で確実に身に付けさせたい知識・技能を明らかにし、系統的に指導していく。 月に1度、朝学習で前学年の復習プリントを実施し、基礎的知識の定着について確認するとともに、80%を超えない問題については、繰り返し指導する。

◆目指す児童像「互いの立場を尊重し、自分の思いや考えを自分の言葉で表現できる子」に対して、その他の教科の実態と手立てをまとめたものです。

生活	低	実態	自分の気づきをすすんで表現することができる児童は多いが、友達の気づきを見たり聞いたりしたこと、さらに自分の気づきを広げていくことが難しい。
		手だて	友達の気づきから自分の気づきを広げていけるよう、気付いたこと、思ったことなどを多様な手段（ICT の活用も含め）を使って伝え合う機会を増やしていく。
音楽	低	実態	・リズムにのって体を動かしたり、手拍子を打ったりするなど楽しく表現活動に取り組める児童が多い。 ・1学期は、鍵盤ハーモニカの指導ができなかったため把握できていないが、キーボードでは、指使いに課題がある児童も多い。
		手だて	・今後も音楽に合わせて友だちと楽しく体を動かす活動を積極的に取り入れていく。 ・範奏を聴いたり、階名唱をしたりする活動を繰り返し行い、スモールステップでできるようになっていく実感をもたせる。ペアで練習する機会を設ける。
	中	実態	・マスクを着用した状態での歌唱ではあるが、正確な音程で歌うことが難しい児童がいる。また、歌唱活動に苦手意識をもつ児童も見られる。 ・キーボードや木琴等の楽器演奏に興味をもって取り組む児童が多い。
		手だて	・CDに合わせて歌ったり、階名唱をしたりする活動を繰り返し行う。また、ペアで声を合わせて歌ったりする活動も取り入れていく。 ・コロナ禍で使用できる楽器はまだまだ限られているが、選曲を工夫するなどして小グループでの合奏にも取り組ませたい。
	高	実態	・鑑賞では、聴き取ったことや感じたことなどを言葉で表現することが難しい児童が多い。 ・マスクを着用した状態での歌唱ではあるが、一人ひとりが思いをもち、生き生きと歌唱活動に取り組むことはできていない。
		手だて	・聴くポイントを明確にする。音楽を表現する言葉のキーワードを予め提示し、自分が感じ取ったことに近い表現の言葉を選ばせるようにする。友だち同士で意見を交換し合う。 ・歌詞の内容や曲想を取り上げて指導するようにする。楽しく進められる発声練習を継続する。
図画工作	低	実態	楽しんで制作活動に取り組める児童が多いが、個人差がある。
		手だて	用具の扱いや色・形の表し方など、作品づくりの基礎基本となる力を着実に身に付けさせるために題材ごとにポイントを明確にして指導する。
	中	実態	意欲的に制作活動に取り組む児童が多いが、集中力を継続させることに課題が見られる。
		手だて	その日の目標をわかりやすい言葉で明確に示すことで、一人ひとりが制作に集中できるようにする。作品の進行具合によって図工の準備運動を取り入れたり、活動の合い間に作品を見合う時間を設けたりして活動に変化をつける。
	高	実態	楽しく制作活動に取り組める児童が多いが、作りたいものや作り方のイメージがわからず、自信がもてない児童もいる。
		手だて	必要に応じて前学年までの用具の扱いも遡って指導する。自信がもてない児童には個別に具体的な作業を示してスモールステップを踏みながら作品を形にしていけるように支援する。

家庭	高	実態	友達が困っているときにはすすんで教えるなど、意欲的に楽しみながら取り組んでいるが、技能の個人差が大きい。感染症対策のため、校内での調理実習が行えず、基礎的・基本的な技能の習得が難しい。
		手だて	ICT 機器を活用し、調理方法や縫い方等を繰り返し確認し、理解、実践できるようにする。ただ単に練習をするのではなく、作品作りを行う中で、知識や技能を身に付けさせる。
体育	低	実態	楽しんで活動に取り組み、友達の動きの良いところを見付けることができる児童が多い。しかし、どうすれば上達するのか考えることは難しい。
		手だて	正しい動きを映像で見せて視覚的に理解させる。また、友達の良いところを全体で共有し、その動きを真似させながら、正しい動きを身に付けさせる。
	中	実態	上達するポイントを示すことで、楽しく運動に取り組んでいる。また、友達との関わり合いは多いが、学び合いについては、課題がある。
		手だて	声かけのポイントを示すことで、関わり合いから学び合いにしていこうにする。学習カードを活用し、自分のめあてをもち、振り返らせることにより主体的に活動できるようにする。
	高	実態	活動に取り組んではいるものの、運動に苦手意識をもっている児童がいる。また、友達との関わり合いは多いが、技能を高められるような学び合いにはなっていないことがある。
		手だて	楽しく運動に取り組めるようにするために、児童同士でルールを考える等、誰もが活躍できるように工夫する。また、学び合いのポイントを明確にし、技能について振り返る場面を取り入れることで技能の向上を図る。
英語活動 外国語活動 外国語	低	実態	チャントやゲームなどのアクティビティを楽しんでいる児童が多い。その反面、普段から使用したり、コミュニケーションの言語として使用しようとしたりする児童は少ない。
		手だて	教室で英単語に触れられる環境を整えたり、教員が積極的に使ったりすることを通して、英語を身近に感じられるようにする。
	中	実態	歌やゲームなどのアクティビティを楽しんでいる児童が多い。進んで ALT や友達と会話している一方、表現の仕方にまだ課題が残る。
		手だて	チャンツやアクティビティで、表現することに慣れ親しめるような場面をつくる。ユニットが終わった後でも、様々な表現を繰り返し使っていく。
	高	実態	歌やゲームなどのアクティビティを楽しんでいる児童が多い。一方で、ALT や友達とのコミュニケーションでは主体的に会話することに抵抗感がある。
		手だて	教室にコミュニケーションのポイントや英単語を掲示したり、教員が積極的に英語を使ったりすることで、英語でコミュニケーションを図ろうとするようにする。
特別の 教科 道徳	低	実態	良い行動や思いやりの気持ちを理解している。しかし、まだ行動に移すことができないときがある。
		手だて	デジタル教材を活用し、視覚的に題材を理解できるようにする。また、生活体験を振り返りやすい資料を使用する。
	中	実態	資料の内容について関心をもって考えることができる。しかし、自分の生活と結び付けられないときがある。
		手だて	日常の児童の生活と結び付けられるような資料を用いる。また映像資料を活用し、興味関心を高めるようにする。
	高	実態	登場人物と自分を重ね合わせて考えたり、周囲の状況を考えたりすることができる。しかし、発表が一部の限られた児童になってしまうことがある。
		手だて	自分自身のことを振り返る時間を設け、自身を見つめるようにする。また、ペアやグループでの活動を取り入れ、考えを広げられるようにする。

総合的な 学習の 時間	中	実態	意欲的に学習に取り組む児童は多いが、身近な問題を課題としてとらえ、見通しをもって課題を解決する児童はまだ少ない。
		手だて	調べたことを本やポスターにまとめる等、効果的な表現方法を身に付けさせる。
	高	実態	本やインターネットを活用して得た情報を整理することはできるが、課題解決に向け分かりやすくまとめ、伝えることは個人の差が大きい。
		手だて	单元ごとに、課題にあった方法で調べ、まとめたことを発表する場を設ける。
特別活動	低	実態	積極的に意見を言うが、自分の考えに固執してしまうことがある。また、話合いの内容がイメージできずに、自分で考えたり、話したりすることができない。
		手だて	友達の意見も取り入れると、よりよい話合いができることを実感させることや、全員が内容をイメージできるように理解する時間を話合いの前に確保したり、短冊に書いて掲示したりする。
	中	実態	自分にとって関心のある内容であれば積極的に意見を言うことができるが、そうでないと主体的に話合い活動に参加することが難しい。
		手だて	話合い活動の前に、学級会カード等に自分の考えを書く時間を取り、自信をもって参加できるようにする。
	高	実態	自分の意見をもてるが、積極的に発言することが難しい。互いの立場に立って、話合いを行うことが難しい。
		手だて	少人数で話す時間をとってから全体で発表させるようにする。委員会やクラブなど、問題解決に向けて、いろいろな立場（異学年）の集団と関わり、話合い、実践する経験を増やす。
特別支援 教室	低	手だて	個々の段階に合わせた方法で、ルールを学ばせる。
	中	手だて	個別や小集団活動で、コミュニケーションのとり方を学ばせる。
	高	手だて	個々の特性に合わせ、中学進学を見据えて社会性を学ばせる。